

平成 24 年度

事業所名 : グループホーム「平」

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390300077		
法人名	社会福祉法人 典人会		
事業所名	グループホーム「平」		
所在地	岩手県大船渡市大船渡町字下平24-1		
自己評価作成日	平成 25年 2月 10日	評価結果市町村受理日	平成 25年 5月 22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/03/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=0390300077-00&PrefCd=03&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号
訪問調査日	平成 25年 2月 21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

大船渡湾を臨む高台に位置する当事業所は、季節行事、年中行事のイベントに地域住民の方々をお誘いしたり、運営推進会議等を通じて地域防災のあり方について話し合いを持つなど、地域交流を活発に図っている。東日本大震災のときに避難所の指定を受けた経緯もあり、防災への意識は高く、今年度は、土砂災害を想定した避難訓練を地域住民と共にを行った。また、福祉避難所・備蓄庫整備の計画も進めている。近隣の高齢者が、福祉ボランティアとして毎週定期的に訪れて下さり、その日は、毎日行なっている健康維持のための歌の時間は、より一層の盛り上がりを見せている。併設事業所に小規模多機能ホーム「平」があり、通いで来られる方々との馴染みの関係も築け、それが交流を活発にしている。利用者、職員がホームで家族のように共生できるようにと利用者も含めて考えた理念のもと、ゆっくりと過ぎる時間を過ごしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは利用者がアットホームな生活が送れるよう家族的な雰囲気のもとで運営されている。開所以来4年目を迎え、地域に溶け込んで安定した暮らしが継続されている。震災復旧支援で法人が県から補助(施設整備等臨時特別補助金)を受け備蓄庫と集会所を整備することになり、当ホームにも設置されることから、運営推進会議で地域の利活用について話題にしたところ、地域からは、行政に繰り返し要望し、やっと仮設の公民館が実現した経緯もあり、計画の段階で事前説明が欲しかったとの意見が出され、地域密着型ケアホームの存在意義を地域の方々へ改めて理解していただく契機となった。ホームとしても地域との関係で、独りよがりや上から目線の面がなかったか、地域へのアプローチの方法を再確認するきっかけとなった。福祉避難所の指定も受けており、地域の活動拠点のひとつとして存在感が増して行くことが予想され、利用者の日常支援に加え、地域密着型の事業所として認知症ケアの啓発を始めとする地域貢献への取り組みが大いに期待される。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

[評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会]

事業所名 : グループホーム「平」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ミーティングや研修等を通じて理念を構築し、皆が見えるところに掲示することで、目標に向い、日々利用者と関わる上で実践に結び付けている。	ホームの基本理念は、平成21年の開所時に職員全員で話し合って決めたもので、利用者が自宅と同じように生活できるようにとの願いのこもった理念になっている。利用者同士がお互いに世話をし合えるファミリー的雰囲気を作り出すよう日々ケアにあたっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	運営推進会議の開催、地区の清掃活動への参加、子ども会の行事を事業所で行って頂く等、日常的に交流している。また、婦人部の方々の訪問による生け花教室や、大正琴教室等も定期的に行われている。	震災後、集会場が不足しているため、子供会の夏休みのラジオ体操や縄跳び、地区の七夕交流会の会場として開放し、利用者も共に楽しんでいる。利用者が回覧板を回したり、地区の清掃活動に職員が参加するなど、地域に溶け込んだ暮らしになっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症に関する相談もあり、随時対応している。法人で事務局になっている“認知症の人と家族の会”主催のつどいの会の案内も配布している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者家族、民生委員、地区の役員、近隣住民、ボランティア、地区担当の警察署員、包括支援センター所長等に参加していただき、状況報告等行なっている。運営推進会議でいただいた助言等をミーティングを通して共有し、緊急時の体制作りやサービスの向上に活かしている。	隣接の小規模多機能ホームと合同の運営推進会議を設けており、さらにボランティアによる「平ホーム盛り上げ隊」が下支えをしてくれる。高台の傾斜地にあり、土砂災害等防災に関する話題が多く、災害訓練への協力や緊急避難での地域の連携など、活発な話し合いの場になっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域ケア会議、事業所連絡会等に出席し、情報交換を行なっている。また、福祉避難所の指定を受けていることから、法人本部を通して備蓄庫整備についても市の担当者に進めている。尚、事故等の報告を速やかに行い指導を仰いでいる。	福祉避難所の指定を受けており、地域の道路や防災に関する事項も含め、市の担当者との連絡、連携をこまめにしている。地域包括センターとの関係も緊密である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間は防犯の為に施錠を行なっているが、日中は行っていない。また、身体拘束に関し具体的な行為について勉強会を行い、疑似体験をすることで意識の向上を図り、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束も虐待行為も、尊厳や人権侵害に当たると言うだけでなく、利用者の生活の質を損なう恐れがある等、全職員で話し合い24時間シートの活用や疑似体験を活かし職員間での気付きを促す研修を積んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関する勉強会を法人の研修会(全体会)で行なっている。また、職員のストレスに関する勉強会、高齢者の尊厳に関する勉強会も行なっている。新人職員も研修会等で随時学んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前、日常生活自立支援事業を利用されている方がいた為、今後利用される方の中にも権利擁護等を利用されている方が来られる可能性がある。外部の勉強会や事業所での勉強会を通して学んでいきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用開始時や利用開始してからも、必要に応じて説明等を行い理解・納得を図っている。利用者や家族の不安や疑問点に具体的に答えられるようにすることで、わかりやすく、誤解を生じないように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族会で、必ず利用者や家族に参加いただいている。また、契約時に重要事項説明の中で、苦情受付機関についての紹介も行なっている。日常の中で話す機会を多く持つように心がけ、利用者、家族の思いに気付ける努力をしている。	利用者の毎日の暮らしぶりを一言コメントにまとめた「七福神日誌」を、毎月家族に送付し、利用者の様子をきめ細かく知らせており、家族の来訪の際に意見や希望を聴取するなど、気付きや意見・要望のくみ取り工夫が実践されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人の全事業所の主務者による会議を週に1回行い、それぞれの事業所が抱えている課題等を皆で検討するなど、事業所の運営に活かす取組みを行なっている。検討内容は、事業所のミーティングなどで全職員に伝わるようにしている。	管理者は、月例のスタッフ会議や毎日行われるミーティングの際に職員から意見、要望や提案を聞いている。事業所内の運営に反映させる他、必要なものは法人全体で開催される主務者会議や管理者会議に報告、提案を行い、職員の意見等を法人全体の運営に反映させるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境や条件について職員アンケートを実施し、それぞれの意見を知ることで、各自が協力して「働きやすい職場整備」に努められるよう試みている。また、法人の就業規則や給与規定に沿った労務管理に心掛け、労働時間内の従業員の終了を行うようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で定期的な研修会を開催し、職員の意識の向上に務めている。また、外部の研修会にも積極的に参加し、より専門性を持って業務に従事できるようにしている。さらに、職員一人ひとりが多方面で、自発的に自己実現に向かえるよう人材育成の視点を持って取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部機関としては、県認知症高齢者GH協会の定例会や研修を中心に、沿岸南ブロック定例会への参加もしている。法人内として今年度は、地域密着事業所の交換研修等を行っており、活動を通じて、各自の意識の向上につなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の認知症状や生活歴、病歴等を元に、本人や家族から話を伺っている。話を聞くことに重点を置き、何が必要なかを見出す努力をしている。それらをアセスメント用紙に記入し、情報共有を図っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思いや不安に耳を傾け、家族の理解者である姿勢で相談に対応している。利用者本人と同様で、まずは話を聞く姿勢を取り、何に困っているのかを理解し、共感することで家族の不安解消を図りながら関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の話を客観的に捉え、最優先のニーズを見極めるように努めている。また、当事業所の特徴も考慮しながら、必要に応じて他のサービスの利用の提案も行なっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理や掃除等の家事だけではなく、朝礼やミーティングにも参加していただいている。職員は常に利用者から学ぶ姿勢で関わっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	運営推進会議や家族会に参加していただき、ご本人を支える為の話し合いを設けている。また、病院受診にも同行していただき、家族と連絡を密に取りながら、共に本人を支えていくように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	通い慣れた美容院に行ったり、思い出の場所にドライブに出掛けたりしている。また、友人や知人の訪問により馴染みの方との関係を継続している。	最近、近くに住む知人が来訪し、利用者を自宅に招待してくれ、2泊してきた例があるなど、馴染みの人との交流が続いている。ドライブの際には、生まれ育った所や思い出のある場所に出掛けるようにしている。また近所のお店や近隣の方々との新しいお馴染さんづくりに努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの生活リズムはあるものの、皆で一緒に行なえる事は職員が間に入って行う等関わっている。機能が低下した方もリビングで過ごしていただき、安心した日々が過ごせるよう工夫している。互いに誰かが側にいるという安心感を提供するように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人や家族が安心して暮らせるように、他のサービス事業所と連絡を取り合いながら支援している。サービス利用が終了しても関係が継続されるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、本人の希望や意向を把握するように努めている。また、希望内容によってはご家族にも連絡し、協力をいただいている。不十分などころもあるが、職員の想いも取り入れながら、意向の把握に務めアセスメントしている。	七福神日記を利用したり、センター方式を活用し、寄り添いなど日常生活を通して個々の思いを把握している。利用者が納得する援助方法を話し合い支援記録に残しながら、その人らしい想いの暮らしにつなげるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人との会話の中や、ご家族から伺う話を通して、生活歴や馴染みの暮らし方をアセスメントシートに記入している。また、ミーティングを通して情報の共有に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	コミュニケーションや心身状態の観察を行い、状況の把握に努めている。記録やミーティングを通して情報の共有を図っている。日々の健康状態については、看護職員と連携を取りながら把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は職員全員でアセスメントを実施し、それをもとにして作成している。必要時は、すぐに見直しを協議し、利用者や家族に意向を確認しながらプランの作成を継続している。職員の気付きを反映できるよう日々の申し送りも忘れずに行い記録している。	「支援へのアイデアシート」8項目に付いて全職員が気付きを基に記録し、介護主任が纏めケア会議で検討し、全職員で情報を共有し新しい課題の発見や家族情報も整理しながら介護計画に組み入れ作成している。急変事の計画変更時にもスムーズな流れとなっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の表情や言葉を個別記録、日誌記録に記入し、情報共有を図っている。そこで得た情報をミーティングや日々の申し送りを通して、介護計画の見直しを行なっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族と連絡調整しながら、本人のニーズに合わせて自宅への帰宅、外泊を行なっている。小規模多機能と併設であることから、その利点を生かし、今後も多様なニーズに柔軟に対応していきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	“地域ケアマップ”を作成・掲示し、地域資源の把握に努めると共に、近隣住民の協力を得ながら、その人らしい暮らしの支援に努めている。地域のボランティアの方が定期的に来て下さることで、暮らしの楽しみにつながっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診を継続している。身体状況の変化に応じて家族と密に連絡を取り合い、症状に合わせた受診調整を行っている。家族同行協力をいただいているが、症状の進行や不良の際は職員が同行し、様子を伝えるなど支援している。	かかりつけ医の受診は基本家族対応としているが、本人の容態により家族と職員が同行し、一緒に医療指示を受け情報を共有し支援している。事業所でかかりつけ医に提供する医務支援記録は家族対応時も持参し、利用者個々に円滑な医療連携が図られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	知識と経験豊富な看護師を兼務として配属している。日々の申し送り等を通じて情報共有を図っている。必要に応じて電話での報告・相談も行い、適切な対応が出来るよう努めている。特に薬の変更があったときは、各自の確認と注意を喚起するよう連携を大事にしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先に出向き、本人への見舞い、必要支援を行い、看護師、家族と現状の把握と今後の対応について情報交換する等努めている。また、退院時も医師、看護師からの助言や書面での報告をいただき、継続した支援が出来るように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療ニーズが優先される場合は、家族と相談の上、医療機関と連携を図っている。終末期のケアに関しては、本人、家族が不安を軽減できるように意向を伺いながら支援しているが、本人への意向確認は表現や聞き取りが難しく、介護現場に携わる者として勉強を重ねていきたい。	重度化については、食事が取れなくなるなど、医療行為が必要になった時点で家族ともよく話し合い、利用継続の判断を行うこととしている。終末期の対応については、主治医の意見を聞きながら、家族の希望も確認し、本人家族の望まれる方向性を慎重に話し合いながら、段階を踏んで理解を得ながら進めたいとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアル、緊急連絡網を活用し有事に備えている。また、法人で定期的に行われている各部会（介護員部会、看護職員部会）を通して、実践力と知識を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災を想定した昼間・夜間の避難訓練のみならず、土砂災害を想定した避難訓練も行っている。地域の福祉避難所として、近隣住民の方々と話し合いの場を設け、有事に備えている。また、地域の消防団との連携を図り、夜警を行っていただく運びとなった。来年度は共同避難訓練を行う予定。	運営推進会議のメンバー協力のもと、夜間を想定した避難訓練等を行っているが、地区消防分団の指導を得ながら、分団が行う地域共同の火災消火訓練に合わせて避難訓練実施の計画をしている。産地としてイエローゾーンに指定されており、土砂災害訓練にも力をいれることとしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いに注意しながら関わるように努めている。利用者それぞれの性格や関わり方を考慮した上で、時に砕けた言葉遣いで対応を行っている。一人ひとりを尊重する姿勢を心掛けている。	親近感を持った表現をしようとして、あまり馴れ馴れしい感じにならないよう敬意を持って接するように心がけている。特に入浴やトイレ誘導の際には、尊厳を傷つけないよう留意しながら見守りや声掛けを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛けだけではなく、表情や視線からも思いや希望を見出せるように努めている。様々な場面で指示するような声掛けをしないように心掛け、自己決定できるように働きかけている。また、それぞれのコミュニケーション力を見極めた関わりをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員が主導しないように努めている。本人の望むような暮らしができるように関わっているが、生活リズムに支障が出る場合には、本人に説明、同意の上で職員の声掛け等により一日を過ごしていただく場合がある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自身で整髪、化粧等ができるように支援している。また、希望に応じて、美容院に出掛けたり、衣類を選べるよう支援している。日常的にその人らしさを見つけ、褒め言葉を掛けたり、特別な日のおしゃれの支援もしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれの食事に関するアセスメントを行い、対応している。季節に合わせた食材を選んだり、彩りや味付けまでも含めた献立を考える等、利用者と共に行い、準備・後片付けも一緒に行っている。また、利用者と職員が同じ食卓で食事、会話を楽しんでいる。	利用者は食事の準備や後片付けに自然体で参加している。職員と買い出しに出る人もおり、献立を話し合いながら必要なものを購入する手助けをしている。利用者の好みを大切にしながら旬のものも取り入れ、楽しい食事が出来るよう工夫、支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	それぞれの食事に関するアセスメントを行い、対応している。また、体調の変化に応じて食事形態を変更する等、柔軟に対応している。摂取量や排泄状況も考慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛け、誘導により口腔ケアを実践している。入れ歯を装着している方には、入れ歯の洗浄も行う等対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、表情や行動からもサインに気付くよう努めている。利用者によって、時間による誘導を行なっている。羞恥心に配慮し、安心して排泄できるように支援している。また、コツを要する利用者には日々工夫して支援している。	トイレ誘導はさり気なく周囲に気付かれないよう職員が連携しながら支援している。職員は羞恥心への配慮・気配りの大切さを共通に認識し、可能な限り自立排泄に向けた支援を徹底している。利用者のシグナルの気付きや早めの誘導等で利用者の尊厳や安心感に繋げるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	服薬にのみ頼ることなく、日々の食事内容を食物繊維の多いものを取り入れる等、考慮している。また、乳製品の摂取も一日のメニューに取り入れ便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	午前中に入浴していただく場合もあるが、午後から夕方にかけて支援するケースが多い。また、希望により就寝前に入浴希望される場合は、できるだけ希望に添えるように努めている。時には、近くの温泉浴場へ出掛けることもあり、楽しみの一つにしている。	週2日を基本とし、隣接の小規模と合同で気分転換に五葉温泉や瀬見温泉等、利用者の希望で思い出の温泉に出掛けたり、生活パターンに変化を取入れ男性日・女性日など日程を組んだり、重度の利用者には複数職員により対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心して休んでいただけるよう、個々に合わせて支援している。居室で休まれる場合も、室温や照明を希望に合わせて調整している。全室が個室となっているが、その時の状態に応じて畳の部屋を利用することもある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬確認表を用いて、服薬による効果と副作用を把握できるように努めている。症状に変化があった場合は、看護師と相談し、必要に応じて医療機関にも連絡・相談を行っている。服薬時は、本人の確認の他、職員の連携も図ることで、飲み忘れ、飲み残し、誤薬防止に務めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味や楽しみを大切に、個々に合わせて支援している。また、屋内だけでなく、屋外での活動も積極的に行っている。また、行事や祝い事には職員と一緒に準備を行うなど、役割を持っていただくことで共に喜びを共有している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物やドライブ等、日々の暮らしの中で積極的に支援している。また、希望に合わせて遠方に出掛けている。時には、家族にも協力を仰ぎ、ご家族と出掛ける場合もある。暖かい日は、近隣を散策して、ご近隣との交流を図っている。	日常的な食材の買出しや散歩のほか、地域の住民と公民館行事に参加したり、好天時に予定外のドライブを楽しんだり、小規模事業所と合同で市街地復興観察や遠野・釜石などに出掛け自然景観や外食を楽しむ等、関係者と連携しながら利用者の思いや満足感が得られる支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理については、本人、家族了承の方のみ事業所で行っている。希望に合わせて職員と一緒に掛け、自身の所持金から趣味活動に使うペンやハサミ等を購入している。自己管理が難しい方は、購入品が必要となったつど対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に合わせて、家族に自ら電話をしている。場合によっては、代弁させていただく対応をとっている。その人の能力に応じた支援となっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地の良い共用空間作りに努め、不快や混乱を招くことのないよう工夫している。多人数が利用する箇所は清潔を心がけ、すぐに掃除ができる準備をしている。居間は、季節を感じる飾りをするなどを利用者と一緒にしない、また、地域の婦人部の方々の訪問で、生け花をホールや玄関に飾っている。	天窓から優しい光が注ぎ、天井の梁が安定感を与えてくれる。ホールは小規模多機能ホームと繋がりが、行き来出来るように工夫され開放的な空間になっている。ホールや廊下の壁には行事のスナップ写真や献立のアップ写真が飾られ、楽しい雰囲気にも囲まれている。大船渡湾に向けて屋外デッキがあり暖かい季節には多に活用される。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う同士がゆっくり過ごせるようにテーブルや椅子、ソファの配置を工夫し、自然な居場所ができている。地域の方々が訪問された場合は、コタツで一緒にゆっくりしていただけるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、使い慣れたタンスやベッド等を持ち込んでいただき、自宅からの延長という気持ちに配慮している。家族にも居心地の良い居室作りについて理解をいただいている。また、家族の写真や思い出の写真を飾る、家具の配置を考える等で、居心地の良さを考慮し、湯呑や箸などは、好みの品を愛用していただいている。	居室毎に個性を活かし、其々に趣が感じられる。家族協力のもと持ち込まれた品々は、利用者を元気づけるように利用者目線に配置され、常に家族の笑顔がそこに在る飾付けなど、また、利用者の好みに合わせ畳敷き対応したり、安心と安全に配慮しながら居心地良く過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所や自身の居室が分かるよう、掲示物を作成する等工夫している。また、危険箇所が新たに見つかった場合は、早期に改善するように努めている。歩行時の十分な歩行スペースが確保されているかも注意している。		